

Title	言語文化学 Vol.27 編集後記
Author(s)	中, 直一
Citation	大阪大学言語文化学. 27 p.124-p.124
Issue Date	2018-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71231
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『言語文化学』第27号をお届けいたします。今号には15編の応募があり、そのうち14編が提出され、厳正な審査の結果、最終的に論文8編を掲載することになりました。ご多忙中にもかかわらず査読をご快諾下さった先生方には、この場をお借りして衷心より感謝申し上げます。

また、学会活動のもうひとつの柱として、例年通り2度の合同研究発表会を開催しました。箕面キャンパスで開催された第51回大会（春季大会、2017年6月29日）では、今年度も言語社会学会の皆様準備・運営から懇親会に至るまで、大変お世話になりました。言語文化学会から5名、言語社会学会から2名、合計7名が3室に分かれて研究成果を発表しました。第52回大会（秋季大会）は豊中キャンパスで2017年10月26日に開催し、言語文化学会から6名、言語社会学会から7名、合計13名が4室に分かれて研究成果を発表しました。懇親会にも多数の皆様にご参加いただき、盛会となりました。

学会運営については、本年度は、井元秀剛先生（副委員長・前期）、郡史朗先生（書記・後期）、霜鳥慶邦先生（秋季大会担当）、中直一、中村綾乃先生（書記・前期）、ハンヒソン先生（事務局）、ホドシチェック、ボル先生（学会誌担当）、村上スミス、アンドリュウ先生（春季大会担当・前期）、宮崎麻子先生（秋季大会担当・後期）、山下仁先生（副委員長・後期）、渡辺秀樹先生（秋季大会担当・後期）の11名の教員委員（五十音順）、および、安里仙華さん、小倉永慈さん、黒田絢香さん、張雨辰さん、三野貴志さんの5名の院生委員（五十音順）から成る、総勢16名の委員が担当しました。助教のハン先生には、学会運営に伴う実務上の煩雑な業務を快く引き受けていただきました。ハン先生の献身的な努力のおかげで、ようやく事務局が円滑に機能するようになりました。また、他の委員の皆様の働きにも大いに支えられました。学会員の皆様には、今後も大会や本誌に積極的にご参加下さるとともに、学会主担当者不在体制となつて久しく、助教を含む各委員が本務・本業の傍ら運営にあたらざるを得ない現状の中、ご発表・ご投稿の際の要項遵守などに関しまして、引き続きご協力をお願い申し上げます。

将来、学会誌を作り上げる過程が教員と院生の共同作業による教育実践の一貫となることを願い、さらに、言語社会学会と合同で開催することになってはや数年経つ大会運営の試みが、両学会のより一層の交流の機会として、充実していくことを期待します。

2018年1月

大阪大学言語文化学会委員長 中直一